文書係受付№45

１８文科高第３９号
平成１８年４月１２日

学校法人神奈川歯科大学理事長　殿

文部科学省高等教育局長
石　川　　明

平成１８年度私立大学学術研究高度化推進事業（新規分）の
選定について（通知）

このことについて、さきに提出された構想調書を学識経験者による私立大学研究高度化推進委員会において審査した結果、別紙のとおり貴学校法人の研究組織が選定されましたのでお知らせします。

ついては、付された留意事項を踏まえ研究を推進するとともに、研究の計画、内容及び成果の積極的な公開に御留意願います。また、留意事項がない事業であっても、研究開始３年目に実施される中間評価で、研究計画に対して特に研究に進展が見られず、改善の見込みがないと判断された場合には、研究を打ち切る可能性がありますことを申し添えます。

なお、選定されたプロジェクトに係る事業の計画調書の提出については、別途、依頼することとしています。

【本件連絡先】
〒100-8959 東京都千代田区丸の内 2-5-1
文部科学省高等教育局
私学部私学助成課助成第二係
電　話　03-5253-4111(内線 2774)
ＦＡＸ　03-6734-3396
E-mail: sigakujo@mext.go.jp

平成18年度 オープン・リサーチ・センター事業（新規）選定結果一覧

大学名	事業区分	事業名	研究プロジェクト名	審査区分	採否	不採択理由又は留意事項案
神奈川歯科大学	オープン	咬合咀嚼器官と高次脳のクロストーク－次世代の歯科医療の基盤創生－	咬合咀嚼器官と高次脳のクロストーク－次世代の歯科医療の基盤創生－	生物・医歯系	○	

平成１８年度 オープン・リサーチ・センター構想調書

法人番号	141003	法人名	神奈川歯科大学	大学名	神奈川歯科大学
研究プロジェクトの主体となる研究組織名	咬合医学研究所 研究組織の母体となる研究所名			当該研究組織の研究者数	４６　名 (ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄに参加しない研究者がいる場合) うち,ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ参加研究者数　９　名
当該研究組織の代表者	(職)　教授　(所属)　歯学部　(氏名)　佐藤　貞雄				
事　業　名	咬合咀嚼器官と高次脳のクロストーク —次世代の歯科医療の基盤創生—				
研究プロジェクト名	咬合咀嚼器官と高次脳のクロストーク —次世代の歯科医療の基盤創生—				
研究プロジェクトの類型	① 研究者養成型　2 高度専門職業人養成型　③ 研究成果等公開型 (複数に○を付しても可。)				
私立大学研究高度化推進委員会における希望審査区分	人文･社会系　理工･情報系　(生物･医歯系)				

1　研究プロジェクトの目的，意義等（当該研究の学術的な特色及び意義を中心に，当該研究を通じた人材養成の　内容（類型１，２の場合）や，学術資料，研究成果等の公開方法（類型３の場合）を記載してください。）
※　複数のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを実施する場合は，それらをどのように総括し組織上の連携をとるかを記載してください。

〔背景〕近年口腔機能と脳疾患との関連性が臨床の現場で指摘されている。我々は先に本学で採択された「顎機能先端研究センター」プロジェクトにおいて、***咬合咀嚼不全がストレス疾患或いは認知症にリンク***するという重要な発見をした。この報告は国際的に多くの注目を浴びてきた（別紙参照）。今や口腔機能は階層的に脳科学研究とタイアップして研究する段階に達した。

〔目的〕そこで、高次脳・口腔科学研究センターを設立し、「次世代の歯科医療の基盤創生」（以下プロジェクトと略す）を立ち上げ、咀嚼と“ストレス疾患”及び“認知症”に係わる高次脳とのクロストーク機構を解明する。そして、これら疾患予防に果たす咀嚼器官の重要性を広く社会に周知するため、研究の場を社会に開放すると共に研究成果を公開して“***予防医学的アプローチによる新しい歯科医療分野の創生***”を目指す。

〔意義〕世界的に見ても口腔機能と全身疾患（とくに脳疾患）に関わる研究は非常に立ち遅れている。本プロジェクトはこの点を一挙に克服できる２つの画期的な特徴をもっている。第１は、これまでの研究で咬合咀嚼刺激が扁桃体のストレス応答・視床下部/下垂体/副腎系（HPA　axis）の過剰反応をも緩和することを発見しているので、咀嚼器官を活用した不定愁訴などの治療と予防が期待できる。第２は認知症予防の指針策定に貢献できることである。現在、咬合咀嚼刺激による高次脳（海馬と前頭前野）の賦活化のアルゴリズム設計を検討中である。本プロジェクトでは、中堅を積極的にチームリーダーとして登用しその下にPDと大学院生を組み入れることにより、本学の研究を活性化する。また、これまで基礎研究の発展に貢献してきた学外の研究者を積極的に受け入れた社学連合コンソーシアムを展開すると同時に、今年度から共同研究を予定している国外研究機関の研究者との学術情報交換、公開シンポジウムを開催する。これに対する大学による支援体制の確立と総合情報メディアセンター（今年度4月開設予定）によるメディア戦略により、本プロジェクトの目的達成と社会への幅広い貢献ができる（右図）。本戦略は***ヘルス・プロモーションに果たす咀嚼器官の役割を日本発の情報として国外に宣伝***する上で社会的に大きな意義がある。

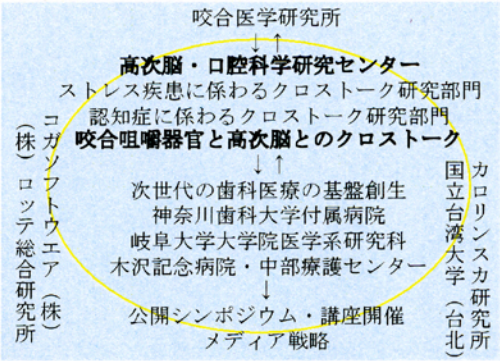

図　研究プロジェクトの概要と意義／効果

大学名	研究組織名	※	※
神奈川歯科大学	咬合医学研究所	O	